トグラフ法により試験を行う。得られたクロマトグラムから、それぞれの溶液のクエン酸モランテル及び内部標準物質のピーク高さを測定し、内部標準物質のピーク高さに対するクエン酸モランテルのピーク高さ比$H_T$及び$H_S$を求める。

クエン酸モランテル（$C_{12}H_{16}N_2S \cdot C_6H_8O_7 \cdot H_2O$）の量（mg）

$$= \text{クエン酸モランテル標準品の量（mg）} \times \frac{H_T}{H_S}$$

操作条件

検出器：紫外吸光光度計（測定波長：320nm、感度：0.08ＡＵＦＳ）

カラム：内径4.6㎜、長さ150㎜のステンレス管に充填剤としてオクタデシルシリル化した10$\mu$mのシリカゲルを充填する。

カラム温度：室温

移動相：0.05mol／Ｌリン酸二水素カリウム1,000mLにリン酸（１→10）を加えてpH3.3に調整した溶液・アセトニトリル混液（３：１）

流量：毎分1.5mL

カラムの選択：標準液５$\mu$Lにつき、上記の条件で操作し、モランテル及び内部標準物質の順に溶出し、その分離度が20以上のものを用いる。

(イ)　保存の方法の基準

クエン酸モランテル製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

(161)　ナイカルバジン

ア　製造用原体

(ア)　成分規格

含量　本品は、乾燥した後、定量するとき、４，４′―ジニトロカルバニリド（$C_{13}H_{10}N_4O_5$）67.4～73.0％及び２―ヒドロキシ―４，６―ジメチルピリミジン（$C_6H_8N_2O$）27.7～30.0％を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、黄褐色～緑黄色の粉末で、臭いはない、又は僅かに特異な臭いを有する。

②　本品は、ジメチルホルムアミドに溶けにくく、水、エタノール、エーテル及びクロロホルムに極めて溶けにくい。

③　融点　約260℃（分解）

確認試験

①　本品の無水エタノール溶液（１→15,000）15mLにスルファニル酸試液５mL及び新たに調製した亜硝酸ナトリウム溶液（１→100）５mLを加え、密栓し、65℃の水浴中で10分間加温するとき、溶液は、赤色を呈する。

②　本品の無水エタノール溶液（１→15,000）15mLに水酸化カリウムのエタノール溶液（１→100）５mLを加えるとき、溶液は、黄色を呈する。

③　４，４′―ジニトロカルバニリドの定量法により得た試料溶液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長428～432nmに吸収の極大を示す。

④　２―ヒドロキシ―４，６―ジメチルピリミジンの定量法により得た試料溶液につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長538～542nmに吸収の極大を示す。

（新設）